

このコーナーでは長年、市内の小中学校で教職にあつた蛭田光城さんが市立図書館発行の「成田のむかし」に執筆した成田の昔の暮らしの様子を掲載していきます。



昭和50年前後の成田ニュータウン

成田ニュータウン①

# はじまり

文 蛭田光城

絵 野上和彦

「空港へ勤める人の住む所として、ニュータウンが、できたの？」

「うんそれもあるね。それから、工業団地に勤める人やホテルやお店もたくさんできて、成田市の人口が増えると見込まれていたんだね。」

「工事はいつから始まったの？」

「昭和43年に用地買収が始まったんだけど、正式に認められたのは、翌年の昭和44年からなんだ。四八七ヘクタール(成田市の面積の27分の1)の広さ。そこへ六万人余りの人が住むようにと考えられたんだよ。そのころ成田市の人口は五万人たらずだったから、ニュータウンは家がぎっしりつまっていることがわかるだろう。」

「いつから人が住み始めたの？」

「昭和47年から入居が始まったそうさ。成田空港の開港がおくれたので、計画通りには人が集まらなかったんだ。」

「さっき通ったとき、公園だの緑道だのいろいろあって、いい所だと思ったけどな。」

「そうなんだ。ニュータウンの中には、もともとたくさんのお墓があったんだよ。確認されたものでも、72基もあってね。そのうち12か所が緑地や公園になっているんだよ。しかしそれは現在のことだよ。昭和45年ごろの工事は、現在の加良部と中台から手をつけ始めたんだ。ここには空港に関係の深い建物が、集まっているからなんだ。」

「その加良部と中台から住み始めたの？」

「そうなんだ。家族で住んだ人もあって、小学生や小さい子供もいたんだ。だから小学校と保育所が、早く立てられたのさ。」

## 編集後記

今回の成田のむかしは「ニュータウンのはじまり」。当時、成田小学校の2年生だった弟は、3年が向台小、4年からは加良部小と新しい学校ができるたびにその1期生となりました。成田空港そしてニュータウンにより成田が大きく変わっていった時代。イラストは今の赤坂消防署辺りからJR成田駅方面を見たもの。中央公民館も市立図書館もまだありません。



成田市役所本庁舎(行政棟、議会棟、消防本部、成田消防署)はISO14001の認証登録を受けています。



成田ニュータウンで最初に誕生した向台小学校